

第3回議会報告会質疑応答記録（概要）

平成24年10月25日（木） 午後7時から

北小野地区

◎委員会報告

Q1 市民

・介護予防事業の予防に向けて、運動グループを設けて推進してほしいとのことですが、高齢者は北小野クラブで毎月1回運動し、家庭でもやっている。
総合型地域スポーツクラブも県下で19番目に結成して、取り組んでいるので、この機会にPRさせていただいた。

A 鈴木議員

・個人が予防として自主的にやってほしいとの願いであり、取り組んでいただき有り難い。

Q2 市民

・鳥獣対策で個体調整をしたと聞くが、東山の成果は。

A 金子議員

・鹿が70頭位で、これまでよりフンも少なく効果があったと聞いている。

Q3 市民

・250頭の捕獲と聞いているが、竹の入り水系で被害が多く、行政に強力に進めるよう依頼があり、県道にトラロープを張る程度ではなく、罠が不足しているのもっと増やしてほしい。

A 横沢議員

・県が広域捕獲隊を組んでやっている。9月末現在の罠による状況は、鹿312頭、猪43頭、熊11頭であり、罠を増やすよう県、市へ要望し、猟友会へもお願いしていく。

Q4 市民

・市の補助金は資格を取るための補助金で、北小野は猟友会員が1人しかいない、会に入ると個人負担があり、1頭8,000円かかり維持管理の補助も市で考えてほしい。要望。

◎意見交換会

Q5 市民

・報告会資料3ページの字が小さく見にくい。

A 金子議員

・議会だよりの資料をコピーしたので白黒で分かりにくいですが、議会だよりは2色刷りで、もっと見やすい。今後検討する。

Q6 市民

・TPP参加について、議会の考え方は。

A 永田議長

・議会は反対の意見書を国等へ出している。

Q7 市民

・国道153号について、153号バイパス委員会の期成同盟会が9地区にあり、平成18年度以降は振興会で交通量調査を行い、朝の7時から8時の間の30分間に500台の車が通るので、議会の協力をお願いしたい。

3桁国道で松本建設事務所に歩道設置を要望しているが、地元は生活道路であり歩道の安全対策や舗装のしなおしをお願いしたい。

A 横沢議員

・国道153号バイパスは過去3回流れている。いずれも用地交渉の段階で駄目になった。議会も行政を通じて県へ要望していく。

Q8 市民

・北小野もCATVや光ファイバーが本年来たので、鳥獣被害の情報網の構築や太陽光パネルも10年以上の実績があり日照時間も長く条件がよいのでさらなる普及やタブレット端末を利用して、JAのオフトークや防災無線の専用端末を各戸へ配備する等、情報提供を考えてほしい。

A 横沢・五味議員

・鳥獣被害の広域対応は、松本方面が進んでいるので、辰野や伊那方面も県へ依頼していきたい。防災無線の情報提供については、今後研究したい。

Q9 市民

・介護予防について、対象者と参加実人数が表では乖離しているがなぜか。

A 鈴木議員

・実態はこのとおりで、65才以上で介護認定を受けていない人である。

兵庫県の淡路市では、生き生き100才体操で筋力アップを図っている例もあり、参加を求めている。

Q10 市民

・運動器とは何か。

A 鈴木議員

・手や足の動かす部分のことです。

Q11 市民

・バイオマス発電について、過去、松本広域森林組合を見学した時の話しでは、年間平均4万 m^3 搬出するのが限度で、拠点から最大30kmが効率的とも言われたが、余熱利用やインフラ整備は、どの程度進んでいるのか。

A 永田議長

・具体的な内容が県から示されていない。市が12億5千万円で購入した土地を提供する方向で借地等の条件もこれからの話、間伐材は赤松や広葉樹で木材加工に8万 m^3 から12万 m^3 、発電に12万 m^3 と聞いているが、全国の例では10万 m^3 /年の例しかなく懸念している。この他道路や水についても課題が多くこれからである。

Q12 市民

- ・横川や高ボッチで鹿を10頭目撃したが、カラ松の樹皮を鹿が食べてしまうと食害により翌年松が枯れてしまうので、広域での鳥獣対策をしてほしい、要望。

Q13 市民

- ・3月11日の被災瓦礫処理について、4月1日にクリーンセンターを市は閉鎖した。なぜ瓦礫の処理をしないのか。被災市に対する市の対応は冷たいのでは。

A 永田議長

- ・市の炉が老朽化してしまい、特殊レンガの納品に半年かかり、改修に約1年間を要し経費が約8億円となり、施設に大きな破碎機もなく、10年後に約50億円かかるので、松本市の施設で共同処理することにした。瓦礫は受け入れられなかった。

Q14 市民

- ・議会活動について、議会報告会より生で話をする機会を設けてほしい。会派が分かれていることが不思議、テーマを掲げて結束してやる議員団の運営をしてほしい。

A 永田議長・金子議員

- ・議会は会派制で、昔は大きな会派は3つ位であったが、近年は議員の考え方も多様化している。
- ・議会基本条例により、年1回は議会報告会を開催する。

Q15 市民

- ・感謝していることが3つあり、地域振興バス、若者定住促進住宅、小中一貫校、国保両小野診療所が約2千万円の赤字、老人クラブのターミナルケアに尽力してほしい、夜間、土日対応や入院施設がなく考えてほしい。

A 鈴木議員・横沢議員

- ・介護保険事業に関係あり介護と大きくリンクしている。アンケート調査を踏まえて考えていきたい。
- ・診療所は苦しい経営、診療に来る人が減っている。12床のベッドに対して2~3床しか使っていない。地域の人が利用することが大切、地域外の人も11%の人が利用している。いろいろと議論して提案していきたい。

Q16 市民

- ・耕作放棄地に対する市の対応は。

A 横沢議員

- ・農業公社による大豆栽培、機械利用組合の拡大、農業後継者の育成等により放棄地を解消していきたい。
- ・ワイナリーも20ヘクタールの自社農園が限度で、農業後継者の確保と魅力ある農業にすることが肝要と考えている。

Q17 市民

- ・小野、勝弦、東山は渇水で、休耕田があるのでトンネルの水で間に合っているが、全員が耕作すれば水不足になる。ポンプアップも電気料やランニングコストも高くなるので、塩嶺トンネルや渇水対策の将来構想を考えてほしい。

A 横沢議員

- ・国鉄の補償で特別会計で運営してきたが利息も減って、一般会計へ繰り入れたが、水不足については、市との協定により心配ない。
- ・水確保については、効率的な方法を考えていく。

Q18 市民

- ・有害鳥獣対策センターにインキュベーションプラザで開発したピカドンを使っているが、時系列で状況把握ができるので、個体調査をしっかりとってほしい。
- ・歩いて健康づくりの、「ど真ん中ウォーク」が岡谷—小野駅、日出塩—小野駅が観光課の動きにより実現したが、さらに充実させてほしい。

A 横沢議員

- ・新しい機器の導入により、地域の鳥獣の傾向を把握したい。ぶどうの郷ロードレースのように、ど真ん中ウォークも、市が力を入れるよう努力していく。